2014年3月3日『佐賀新聞』

新聞　（第三種郵便物認可）

「ノリージョ」や「ののじパン」
ノリ使った新メニュー

西九州大生3人が考案

神埼市 佐賀市

西九州大学健康栄養学科3年の学生3人が県有明海漁協の協力を得て、有明海産のりを使った料理を考案した。乾燥した生のりをオリーブ油で揚げたソース「ノリージョ」や細切れの焼きのりを小麦粉に混ぜて焼いた「ののじパン」など5種類。試作品が出来上がり、同漁協は商品化を検討している。

昨年8月、大学は同漁協と「佐賀のりを使った新商品開発」をテーマに、共同研究の契約を結んだ。若い感性で新たな調理法を提案してもらい、若者を中心に消費拡大へつなげる狙い。3年生の橋口佳奈さん(21)＝鹿島市、野中まどかさん(21)＝福岡県八女市、川島彩美さん(21)＝同＝が試作品を作った。

「ノリージョ」を考案した野中さんは、大学近くのパン屋の魚のオリーブ煮にヒントを得て、生のりにタカノツメとニンニクを混ぜて揚げた。のり工場も見学し「大学でできない体験もでき、勉強になった」と話す。

「ののじパン」は橋口さんがロールケーキの断面から着想を得た。焼きのりを混ぜた黒い生地をひらがなの「の」の字に成形、程よい塩気と磯の香りが特長。川島さんはのりとナッツを混ぜた生キャラメルでパリッとした食感が楽しめる。

3人は安田みどり教授の指導を受けて取り組み、試作品は20種類以上に上る。長期休暇中や放課後も調理に励んだ。他団体も参加して2月7日に開かれた試食会では、ホテル関係者から好評を得た。

県有明海漁協の江頭忠則販売部長は「〝のり＝ごはん〟のイメージから脱却していて、面白い。販売につなげられれば」と話す。今後、原材料の確保や製造業者の選定などにめどがつけば商品化を進める。（大塚堅志）

上のりを使った料理の試作品を完成させた、左から橋口佳奈さん、野中まどかさん、川島彩美さん＝神埼市神埼町の西九州大　下県産のりを使って試作したスパゲティやパン。生キャラメルやトマトスープにものりを混ぜた

人形持ち寄り 桃の節句祝う

けやき台4丁目

基山町

基山町のけやき台4丁目公民館で1、2日、「ひな祭り会」があった。住民たちが自宅で眠っていたひな飾りを持ち寄り、桃の節句を祝った。＝写真

子どもが巣立ち家庭で飾る機会がなくなったひな飾りを生かし、住民同士の交流をと昨年から実施している。

集まったひな飾りは、座りびなの8段飾りをはじめ、木目込み人形やステンドグラス、タペストリーなどさまざま。桃、端午、七夕、重陽、正月の五つの節句を祝う「さげもん」もあり、来場者にはひなあられや抹茶が振る舞われた。

企画したけやき台4丁目自治会文化部長の油布良子さん(56)は「手作りの作品もあり、にぎやかな会になった。今後も続けていきたい」と話した。

緑の少年団員 桜の苗木植樹

吉野ヶ里町

吉野ヶ里緑の少年団12人が1日、町グラウンドゴルフ協会のメンバーとともに、吉野ヶ里町石動の「山茶花の湯」横のグラウンドゴルフ場付近に、桜の苗木11本を植樹した。グラウンドゴルフ場付近には花が少なく、斜面を桜できれいにしようと取り組んだ。緑の少年団の活動の一環で、緑の基金事業を利用した。

植えた桜の苗木には竹をあてて支えた＝吉野ヶ里町石動

子どもたちは小雨が降る中、大人の指導を受けながらスコップで穴を掘り、約2㍍の桜の苗木を植えた。細い苗木が倒れずに成長できるよう、竹をあてて支えた。

井手杏香さん(10)は「土が硬くて思ったより大変だったけど面白かった。きれいなピンクの花をいっぱい咲かせてほしい」と笑顔を見せた。

詐欺被害防いだ 郵便局長ら表彰

鳥栖市

鳥栖署は、高齢者の詐欺被害を未然に

市内の高齢男性に送金額や目的を尋ねた。男性が「100万円を、以前だまし取られた金を取り戻すため弁護士費用に使う」と話した